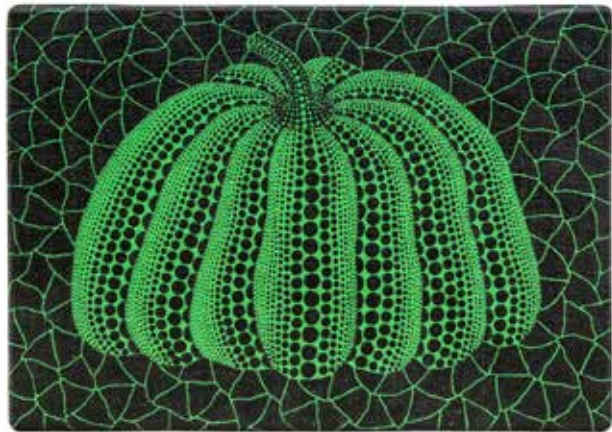


近代・戦後・現代美術、アーバン・アート

## 東京・香港ともに堅調

安定の草間・戦後美術、注目高まるロッカク



11月25日に開催された近代・戦後・現代美術の香港セールではシャガール、カシニョール、ビュッフェなど近代を代表する欧米作家からバンクシーやジェフ・クーンズなどアートシーンを賑わせる現代作家まで全109ロットが出品。部門における落札総額は2,609万1,230香港ドル(約3億7,649万円)、落札率は72%と好調を維持、全体的にバランス良く落札された堅調なセールであった。

草間彌生の「かぼちゃ」や「ハイヒール」などをモチーフとしたキャンバス画・コラージュ・版画・ブロンズなどは出品された18点の内17点が落札され、総額は927万4,650香港ドル(約1億3,383万円)を記録した。

近年注目されているロッカクアヤコは、2007年に制作されたアクリル「ORANGE DRESS」は上値を超えて36万3千香港ドル(約523万円)で落札。加藤泉の油彩も海外からの電話ビッドが重なり、42万3,500香港ドル(約607万円)を記録した。



ロッカクアヤコ「ORANGE DRESS」  
72.8 × 60.8 cm

趙無極、朱德群、韓国の李聖子、シンガポールの鐘泗賓、フィリピンのF.アモルソロなど20世紀の東アジア、東南アジアを代表する作家の貴重な作品がいずれも落札。今後の美術市場において、より一層の活躍を予感させた。欧米からはG・マチューの作品が133万1千香港ドル(約1,920万円)で落札。同じくフランスで活躍した抽象画家の大物S.アンタイの作品も、白熱した

競り合いの結果、133万1千香港ドル(約1,920万円)で落札。

全体として中国経済の低迷が影響し、爆発的な伸びを示した作品はみられなかったが、落札率および価格も安定した堅実なセールであった。慎重な中国に変わって日本、韓国、フィリピンなど、中国経済の影響を受けにくい別地域のコレクターが際立ったセールとなった。

## 10年ぶり現代美術、アーバンアート東京開催

10月20日に行われたオクタムセール東京ではアーバンアート&近現代美術が大きな反響を受け、次回に繋がる好結果を記録した。「アーバンアート」は現代アートをより広い意味で捉え、ウォーホルなどの先駆的な作家から今後が期待される若手作家、ユニークな作品からマルチプルな作品まで、絵画、版画、写真、オブジェ、近代陶芸、デザイン家具など既存にとらわれず幅広く出品を募った。

A.ウォーホル「ジェーン・フォンダ」が276万円で落札、J.オピーのアニメーション作品が494万5千円、バンクシーの「TOXIC MARY」は、バンクシー作品が落札直後にシュレッダーで裁断されたニュースの影響もあり予想価格の下値が80万円のところ230万円と高額で落札されている。



バンクシー「TOXIC MARY」  
70 × 50 cm

ロッカクアヤコのアクリルは多くの事前入札を受け、747万5千円で落札。その他、鴻池朋子、細川真希、小林浩、深堀隆介などが落札されている。戦後美術からは平賀敬が517万5千円で落札、菅井汲、岡田謙三、難波田龍起、横尾忠則、舟越桂などの作品も順当に落札されている。欧米の近代美術からはA.ロダンのブロンズ像が495万5千円で落札となっている。

## アートバブルから復活する作家たち

2006年頃から始まった世界的な現代アートバブルにより、日野之彦、できやよい、鴻池朋子など、当時若手作家と呼ばれた彼らの作品価格は上がったが、リーマンショックの影響により暴落、市場から姿を消した。しかし、ここで再び動きがみられるようになってきた事は、若手作家を取り扱い紹介してきたエスト・ウェストにとって嬉しい。今年もアーバンアートを東京で継続し新進気鋭の作家作品を紹介していきたい。